

1 実施方法

学校関係者評価委員会（学校評議委員会）に、自己評価の結果を資料として示し、本校の自己評価が適切に行われているかどうか、また、教育活動全般における取組が適切かどうか等について評価をいただいた。

2 実施日時・会場

令和8年3月6日（金）15：00～16：00 本校校長室

3 学校関係者評価の結果（所見および指導助言）

- (1) 生徒は笑顔が多く、よく挨拶をする。素直に育っていることを実感する。
- (2) 自身の子どもに対してもそうであったが川棚高校は生徒一人ひとりに合った進路指導をしてくれる。
- (3) 県北・県央の私立高校のバス通学や高校授業料無償化などの影響により、進路選択の幅が広がったため、川棚高校は非常に苦しい状況下にある。
- (4) 川棚高校にやってみたい部活動がないため、川棚高校以外の学校を選択している中学生も多い。
- (5) 川棚町に愛着を持っている生徒は多いため、地域と高校の連携を今以上に深めていければよい。
- (6) 文化祭でのキッチンカーの企画や、人生の達人セミナーでの岩松了さん（劇作家・本校卒業生）の講演など、非常に良いと感じる。地域の方の参加や中学生との合同開催ができたことも成果である。
- (7) ホッケーについては認知度を高めるなど、もっと川棚町全体で盛り上げていただきたい。クラブチームの人数も少ない。
- (8) 家庭学習の定着は中学生も課題となっている。スマホ等の家庭のルールを保護者が守らせることができていない。

※上記の所見及び指導助言に対して以下の確認を行った。

- (Ⅰ) 特に普通科の魅力については、外部にもっと発信するべきと捉えている。また、本校生徒の進路は多岐にわたっており、多様な進路選択が可能である。少人数できめ細やかな指導ができるのは川棚高校のメリットである。強く発信したい。
（（3）、（4））
- (Ⅱ) 地域と連携した取組については、総合的な探究の時間等を中心にした全生徒を対象とした取組となるよう、まずは段階を踏んで実践していきたい。（今年度は希望者を募っての企画があった）（（5）、（6）、（7））
- (Ⅲ) 学び直しや個別最適な学びのサポート等、子どもたちの主体的な学びや家庭学習の充実を支援するために、スタディサプリをさらに活用させたい。また、総合的な探究の時間等での活用も考えて実践していく。（（8））